



Hi! from SAGA

Spring 2021 vol.7

SUISA ニュースレターチーム
& 佐賀大学国際交流推進センター



佐賀大学ラブストーリー

トーバさんと美樹さんは佐賀大学で出会いました。そして喜ばしいことに2021年4月23日、お二人は結婚の誓いを立てられたとのこと。



オンラインランゲージラウンジ

今年の3月には大学内でオンラインランゲージラウンジが開催されました。国際課の北村さんのご指導の中、私達 SUISA の筆者を含む留学生の学生スタッフを中心に英語回と日本語回を交互に計4回開催されました。



卒業式

今年は、佐賀大学の卒業式の会場で桜が咲きました。卒業式は、2021年3月23日に佐賀市文化会館で行われました。



入学式

「入学式」の日は、大学生活の新たなスタートであり、長い人生における第一歩であると人々は言います。



オンラインウェルカムパーティー

2021年4月21日の午後、暖かい天気の中、新しく来た留学生の歓迎会がオンラインで開催されました。

佐賀大学国際交流推進センター

+81-952-28-8169

ryugaku@mail.admin.saga-u.ac.jp

<https://www.irdc.saga-u.ac.jp>



佐賀大学ラブストーリー

トーバさんはドイツ人の食品化学者です。テューリンゲン州で働いて、来年には別の都市に引っ越す予定です。2016年10月に、佐賀大学で研究生として半年間の交換留学プログラムに参加しました。

美樹さんは、ドイツで日本語教師をしています。彼女は2017年3月に佐賀大学を卒業し、その後ドイツにて修士課程を修了しました。

そして喜ばしいことに2021年4月23日、お二人は結婚の誓いを立てられたとのことです。佐賀大学の国際カップル、おめでとうございませう！



留学生との長崎旅行

どのようにして出会いましたか？

トーバさん：美樹さんと初めて出会ったのは、2016年10月、唐津へのフィールドトリップの時でした。彼女に一目惚れで、写真で分かるように、その日のうちにお互いの距離が縮まってきました。また、ドイツ語の授業でも会っていました。美樹さんは後輩の授業を手伝う先輩で、私とクレメンツ（もう一人のドイツ人留学生）は国際交流のためにその授業に通っていました。それを機に、私は彼女に言語交換タンデムを始めようと声を掛けました。半分は日本語、もう半分はドイツ語で話していたのですが、共通の言語である英語で話す時間が長くなっていました。後日、佐賀城でデートをしました。佐賀城には、外国人に見慣れていないたくさんの小学生グループがいて、彼らは私の後をどこまでもついてきました。可愛くて明るい雰囲気に包まれ、私は美樹さんに心を開いて告白する勇気をもらいました。

佐賀大学時代の一番の思い出は何ですか？

美樹さん：私も沖縄が一番の思い出ですが、私とトーバさん、そして友人たちに行った長崎旅行も素敵な思い出の一つです。ランタンフェスティバルの時期に訪れ、中華街の装飾がとても綺麗で、食べ物も美味しかったことを覚えています。ユースホステルでは、みんなで大きな畳の部屋に泊まり、夜遅くまで楽しく語り合いました。

最後に一言。

トーバさん：新しいことに積極的に挑戦することをおすすめします。私は佐賀大学で弓道や剣道を体験して、日本人がどのようなスポーツを好むのかを知り、新たな視点を得ました。また、日本人は恥ずかしがり屋な人が多い印象がありますが、その壁を破ってみてください。そうすれば、彼らがどのようにコミュニケーションを取り、長い友情を築きたいと思っているのか、驚くかもしれません。日本人の学生に

は、外国人と話すようにしてほしいと思います。なぜなら、私たちは日本にいる間にたくさん日本人と友達になりたいからです。

美樹さん：何よりも大切なのは、自分の人生を楽しむことだと思います。特に交換留学に行ったり、さまざまなバックグラウンドを持つ人と知り合ったりするチャンスがあるときは、それを楽しんでみてください。日本人だけでも、外国人だけでもなく、みんなで国際的なグループを作るのは、またない機会です。楽しいだけでなく、自分を成長させ、自分の視野や心を開くための最高の方法のひとつだと私は思います。「ラミ」

オンラインランゲージラウンジ

今年の3月には大学内でオンラインランゲージラウンジが開催されました。国際課の北村さんのご指導の中、私達 SUIISA の筆者を含む留学生の学生スタッフを中心に英語回と日本語回を交互に計4回開催されました。参加者は留学生と日本人学生だけではなく、コロナ禍の関係で佐賀に来られていない留学生も数名参加しました。各回およそ10名から15名の学生に参加していただきました。

ズームを使用して開催された今回のオンラインランゲージラウンジは、学生スタッフを筆頭に自己紹介で始まり、その後3-4個のブレイクアウトセッションに分かれ各セッションごとに交流が行われました。交流内容としては各国の紹介や話だけではなく、自分の国との違いを語り合い、その他には様々なゲームも行われました。中には絵しりとり、物当てゲームや学生スタッフの部屋を使って間違い探しなどが行われました。



オンラインランゲージラウンジ

今回初めてオンラインを用いてこのようなイベントを行ったのもあり、少々うまくいかなかったところなどがありましたが、留学生と日本人学生が楽しく交流できる場を作れたのではないかと考えています。「アルビン」

卒業式

今年は、佐賀大学の卒業式の会場で桜が咲きました。卒業式は、2021年3月23日に佐賀市文化会館で行われました。佐賀大学の新型コロナウイルスの予防のルールのひとつであるため、今回は家族と一緒に行くことができませんでした。私も含めて、今年は卒業式があることを知って、みんな本当に嬉しかったです。私は今年の卒業式を楽しむことができた幸運な学生の一人でした。

その日は、佐賀駅にバスで行き、そこで研究室の仲間と会い、一緒に会場に行くことから始めました。会場は混雑していましたが、式典開始前に卒業式の参加資格や座席番号を提出しなくてはならず、全員が

マスクを持って物理的な距離を保っていたので、安心して参加できました。

最初の式典は開会式で始まり、日本国歌（君が代）を歌い、卒業証書を授与し、佐賀大学長からのスピーチ、学生からの言葉、学生賞の発表、そして閉会といった流れでした。たくさんの美しい袴やスーツを着た学生と日本の国旗、佐賀大学の旗を掲げて君が代を歌っていたとき、私は個人的に驚きを感じました。私はここにいるのがどれほど大変だったかを思い出して泣いていたのですが、ついにそれを実現することができました。神様ありがとうございます！



2回目の式典は大学で行われました。今回の式典では、それぞれの研究室の先生から、一人ずつ前に来て卒業証書をもらうことが出来ました。最後に、この卒業式で友達に別れを告げるのは本当に悲しい瞬間でした。さよならはいつもそこにありますが、いつかまた会うことはできます！そうでない場合でも、佐賀大学にはいつも心に残る美しい思い出があります。「ジェフリ」

入学式

「入学式」の日は、大学生生活の新たなスタートであり、長い人生における第一歩であると人々は言います。朝日が昇り、入学式に心を向けて早起きしました。アパートの窓から春の美しい景色を楽しみながら、コーヒーで少し不安を和らげようとさえしました。式典の会場は大学のキャンパスから少し離れているので、私は友人と車で行くことにしました。

15分のドライブの後、私たちは会場に着きました。外の景色は素晴らしく、何百人もの学生が並んでホールに入るのを待っていて、誰もがスーツを着ていました。日本の服装のルールについてはあまり知りませんが、友達からもスーツを着るように強く勧められて良かったです。日本は規律と時間厳守で有名であることは誰もが知っていることですが、私は「感染症の世界的大流行」に対する彼らの扱い方に感銘を受けざるを得ませんでした。ソーシャルディスタンスを確保するために、1つのホールではすべての学生が参加できなかったため、学生は2つのホールに分かれ、私たち学生が同時に参加できるように、画面を通して式典を見る必要がありました。

式典では、学長や各学部長からのスピーチがありました。内部の雰囲気は私をピリッとさせ、歓迎のスピーチが日本での私の新しい大学生生活をスタートさせる動機と激励の感覚を提供したことは間違いありません。また、入試で優秀な学生は奨学金をもらうことが出来、彼らからのプレゼンテーションや感謝のスピーチがありました。すべてのスピーチの後、私たちはお互いに敬意、深い感謝、感謝を示すためにお

辞儀をします。私にとって、この意味のある行動は、私のヨーロッパの文化では簡単に見ることができないため、非常に驚くべきものであり、息をのむようなものです。



今年の入学式は、みんながマスクと社会的距離を身につけていたからではなく、同じ日に2回の式典があったために異なっていました。そうです。新型コロナウイルス感染症のため、昨年入学した人の入学式は中止を余儀なくされました。したがって、今年、彼らはその日に2つの式典を手配しました。午前1回、午後にもう1回あり、昨年、入学式に参加できなかった学生のために大学側がどのような気配りをしたかを見ることが出来ました。

セレモニー終了後、昨年入学した学生が到着しました。これは私にとって昨年入学した学生とも会う大きな機会をもたらしました。春の暖かい日差しの中、会話を交わし、たくさんの写真を撮りました。多くの人が「写真は一生の思い出になる」と言っています。私にとっても、この感謝の瞬間を、決して消すことのできないこととして記憶に刻むことでしょう。「エルヨン」

オンラインウェルカムパーティー

2021年4月21日の午後、暖かい天気の中、新しく来た留学生の歓迎会がオンラインで開催されました。このイベントは、佐賀大学が新型コロナウイルス感染症の学内におけるクラスターを発表してから2日後のイベントでしたので、少し雰囲気が悪かったその週を明るくしてくれました。正直なところ、こんなにも新しい留学生の歓迎会が私を元気づけてくれるとは思っていませんでした。私はこのパーティーにとっても勇気づけられたので、今回はいつものように自分の気持ちを最後の段落ではなく最初の段落に書きました。

歓迎会には新留学生や、学部や大学院に在籍している留学生の計19人が参加してくれました。中には、新型コロナウイルスの影響で来日できていない交換留学生もいました。現段階では佐賀に来ることはできませんが、彼らは希望を失ったのではなく、今でなお大学院生として佐賀に留学するための奨学金について考えたりしていて、私はそのことに感動しました。

話は歓迎会のことに戻りますが、オンラインでの開催はこれで3回目でしたので、昨年よりも円滑に進めることが出来ました。この歓迎会の主催者であるムスタファさんが快活な挨拶を行い、乾杯で歓迎会が始まりました。その後それぞれのグループに分かれてお互いをよく知るために、どこの国の出身か当てるゲームや、「2つの本当と1つの嘘」と言う名のゲームを行いました。メインルームに戻ると、ジョゼと私（誰だと思いませんか？ピームです！）が、私たちの経験をもとに「佐賀に住むために知っておくと便利なこと」を共有しました。



携帯電話の契約、日本の挨拶、コンビニエンスストア、自転車の登録、カラオケ、理髪店について話しました。次に、部屋を別のグループに分けて、国の誇り高い工芸品を紹介しました。その後、私たちのグループ「SUISA」をラミさんが紹介しました。そして最後に「しりとり」をして終わりました！

オンラインでみんなに会うと、実際に会いたくなりますし、まだ日本に来られない人もすぐに来てほしいです。それを実現するために、マスクを着用し、手を洗い、家にいることで協力しましょう。「チーム」

編集

ブアラパー ビームマパット、工学系研究科博士課程2年
ジェフリテッリアーディアンサ、情報工学科博士課程1年
エルヨンクラスニキ、都市工学専攻修士1年
國弘 貴之、教育学部 小中連携教育 中等主免教育 英語専攻 4年
エルビン 練 隼昂、都市工学専攻修士2年
ラミさん、トバさんと美樹さんに特別な感謝を捧げます